

4月11日、長野県長野市の戸隠山国有林内にある戸隠森林植物園において、長野市立戸隠中学校2年生の生徒による小鳥の巣箱かけが実施されました。

長野市立戸隠中学校のこの取り組みは、鳥の生態について学び、自然豊かな戸隠の中で、様々な生き物とのふれあい、自然への理解や関心を深めることなどを目的に昭和48年から実施されている伝統ある行事です。

戸隠山の麓にある戸隠森林植物園は、杉並木の巨木で有名な戸隠神社奥社と、風のないときは雄大な戸隠山が映る鏡池との間にあり、その間の歩道としても機能することから、一体的に多くの観光客が訪れる人気スポットであり、野鳥、水芭蕉など動植物の観察やスノーシューの歩行なども含めて年間を通じて散策を行うことが出来ます。



生徒は、園内にある営巣に適した木を選定し、梯子を掛けるなどして取り付けを行ったほか、以前から設置されている巣箱の中身を確認して清掃も行いました。

鳥類の中には、自ら巣穴を作らない種もいることや、一度使った巣箱は清掃をしないと新たに営巣しないことから、本取り組みは野鳥が繁殖する手助けとなるほか、森林に生息する種のネズミなど小動物の越冬の場としても利用されるなど、戸隠森林植物園内の動物たちの暮らしやすい環境作りにとっても大きな効果があります。

皆様が当園にお越しの際は、長野市立戸隠中学校の生徒たちが工夫を凝らし、少しずつ違いのある歴代の巣箱もご覧いただき、散策をお楽しみいただきたいと思います。

